



■新入生を迎えました

207名の新入生を迎え、新たな学校生活が始まりました。全校生と先生方で協力して「一人一人が活躍できる山手台中学校を創っていきたい」と思います。保護者・地域の皆様もご理解・ご支援いただきますようお願いいたします。下記に入学式の式辞を紹介させていただきます。

式辞

色鮮やかな花々が咲きほこり、春の香りが満ちあふれる季節になりました。本日このよき日に、宝塚市立山手台中学校の第33回入学式を迎えられたこと、大変嬉しく思います。

ただいま、呼名をいたしました207名の新入生の皆さんご入学おめでとうございます。在校生ならびに教職員一同、心から皆さんの入学を歓迎いたします。

さて、皆さんは、中学校生活に期待と不安を感じながら今日を迎えたことと思います。「勉強についていけるだろうか」「友だちはできるだろうか」「部活動で先輩たちとうまくやっていけるだろうか」いろいろな不安があることでしょう。しかし、心配はいりません。この山手台中学校には、よき先輩、よき先生、よき保護者、よき地域の方々がたくさんいます。困った時には、一人で抱え込まず、遠慮なく周りの人に助けを求めてください。

ここで、入学にあたって皆さんに伝えたいことがあります。それは「夢を追い続けること」の大切さです。皆さんは小さい頃からアニメの「アンパンマン」をよく見てきたと思います。この「アンパンマン」の作者「やなせたかしさん」は、漫画家として世の中で認められるまで40年近くかかりました。売れなくても、彼はひたすら漫画を描き続けました。好きな漫画を描けることが喜びであり、少しも苦しみはなかったそうです。そうして40年描き続け、その良さが世間の子どもから大人まで幅広く愛され、皆のアイドル「アンパンマン」になりました。

しかし、そのやなせさんも、一生のうちで、一度だけ漫画を描くことをやめようと思ったことがあるそうです。それは、東日本大震災のときです。この震災で多くの人々が家族を亡くし、家を失い、絶望のどん底に落とされました。そんな人々を見ても何もできない自分。こんな時にのんきに漫画を描いていいのか悩み苦しんだそうです。何もできない自分に腹も立ったそうです。

そんな日々を送っていた時に、震災から数日後に、あるラジオ番組に「アンパンマンのマーチを流して下さい」というリクエストがあり、さっそく放送したところ、子どもたちがラジオに合わせて大合唱を始めたということです。また、大人たちも涙を流して感動したそうです。

それからラジオ局は連日「アンパンマンのマーチ」を流しました。そのニュースを聞いて、やなせさんは、「そうか、僕にできることは、心に傷を負った子どもたちを元気づけ、励ますことなのだ」と分かったそうです。そしてアンパンマンを描き続けることこそ自分の夢なのだと実感したそうです。

皆さんは、「アンパンマンのマーチ」の歌詞を覚えていますか。この歌詞の中には「生きる喜び」「いまを生きる」という言葉がたくさん出てきます。私はこの歌詞の中で気になっていたのは、「胸の傷が痛んでも」という歌詞です。この曲の出だしは、「そうだ嬉しいんだ生きる喜び、たとえ胸の傷が痛んでも」で始まります。アンパンマンの「胸の傷」とは何なのか気になりました。しかし、彼が40年間漫画家として認められずに、苦勞をしながら生み出したキャラクターがアンパンマン。アンパンマンは強くない。強い時もあるけど、相手にも、自分にも負けそうで、弱い部分もたくさんあります。それこそが他の正義の味方と違うところなのかもしれません。人間は、そんなに強くない。むしろ失敗の連続で、悲しいことや苦しいこともある。やなせさんは、「人間は誰でも胸の傷があり、それを乗り越えた先に必ず喜びがある」と言いたいのではないかと思います。

やなせさんの言葉です。「絶望の隣は希望です。人間はこんなふうに、逆境の中でも夢を見る生き物なのだ。人は誰も幸せな人生を送りたいと願い、こうありたい、明日はそうなれるかもしれないと夢を追いかけていく。だからこそ、頑張れるのだ。もしかしたら、実現しないかもしれない。夢で終わってしまうかもしれない。それでも夢を追いかけていく。いつの間にかそれが生きがいになっていく。自分のやりたいことをずっと継続して、やめないこと、それが大事だ」といいます。新入生のみなさん、どうか中学校生活で何事にも一生懸命に取り組んで、自分の夢を追い続けていきましょう。

最後になりますが、保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。少し前までは、小学校に通っていた我が子が、真新しい中学校の制服に身を包み、緊張した面持ちで入学する姿を見て、感慨もひとしおのことと存じます。本日より、私たち教職員が責任を持ってお子様をお預かりいたします。

現在、急激な社会の変化に伴い、さまざまな課題解決が迫られる教育現場ですが、本校では、「未来を創造するための基礎的な力を持ち、人間性豊かで逞しく社会を生き抜く力を育む教育」を推進して参ります。本校教職員、一丸となってこれからの3年間、お子様の教育に当たって参りますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。以上、簡単なお挨拶となりましたが、式辞といたします。

令和8年（2026年4月10日）

宝塚市立山手台中学校長

筒井 啓介

■2026年度 学校組織

各学年の先生方と授業や学校生活でお世話になる先生方を下記に紹介させていただきます。
教職員一同力を合わせて教育活動の推進に取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。

校長		筒井 啓介	-	2年	1組	辻井 佑生	社会
教頭		上田 昌弘	-		2組	布谷 美幸	家庭
1年	1組	小野 美南海	英語	3組	松本 直人	数学	
	2組	荒木 大翔	数学	4組	鳥羽 千晴	保体	
	3組	常見 奈由	社会	5組	宮城 謙一	理科	
	4組	西野 達也	保体	YSR1	藤原 亮太	-	
	5組	佐久間 浩平	理科	YSR1	久保 由稀乃	-	
	6組	中村 和輝	社会		森本 由美	英語	
	YSR2	阪本 恵子	-		岡 正	国語	
		青木 こず恵	英語		荒井 祐人	保体	
		高橋 里美	国語		梶原 康温	技術	
		宇野 絢香	音楽	YSR	中田 摩耶	-	
	浅田 侑那	美術		木本 日出康	理科		
養護	片山 ほのか	-	事務	水鳥 匠悟	-		
3年	1組	藤原 周太	数学	事務	山野 英子	-	
	2組	森口 堅太郎	国語	用務	小川 誠人	-	
	3組	八木 咲子	音楽	調理	阪上 京子	-	
	4組	武山 昇平	英語	調理	藤原 吉孝	-	
	5組	小山田 直弘	数学	調理	岡田 佳代	-	
	YSR3	佐藤 和代	-	調理	五味 輝美	-	
		安井 章裕	保体	調理	定平 貴子	-	
		林 やよい	国語	調理	藤原 正美	-	
		黒田 淳子	社会・音楽	介助	杉本 裕代	-	
		長瀬 広和	理科	司書	南 祥子	-	
	薄井 淳子	英語	SC-	阪部 健太郎	-		
栄養	古山 左和乃	-	SSS	谷川 陽子	-		
			ALT	ティモシー・クランシー	-		

「道」

自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。広い時もある。せまい時もある。のぼりもあればくだりもある。坦々とした時があれば、かきわけかきわけ汗する時もある。

この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もある。なぐさめを求めたくなる時もある。しかし、所詮はこの道しかないのではないか。

あきらめろと言うのではない。いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、ともかくこの道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。

他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。

それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。

松下幸之助 著「道をひらく」より

松下幸之助（まつした こうのすけ）さんは、パナソニック（旧社名：松下電器産業、松下電器製作所、松下電気器具製作所）を一代で築き上げた人です。松下さんは、1894年〈明治27年〉和歌山県で生まれ、1989年〈平成元年〉ご逝去されています。

松下さんは、実業家であるとともに発明家でもあり、事業の実績はもちろんのこと経営理念や人生哲学を生み出し、多くの方の模範となっています。また、いろいろな名言を残されており、その中の一つに「道」があります。

中学3年生は義務教育最後の年です。これからは、自分で歩む道を切りひらかねばなりません。じっと待っていても道はひらけません。いつも順風満帆に物事が進めば良いのですが、時には思い悩むことや立ち止まったり、逃げ出したくなったりするかも知れません。そんな時には「道」を思い出して、諦めることなく前を向いて歩み続けて欲しいと願います。

松下さんが残した他の名言もいくつか紹介します。

- ・失敗したところでやめてしまうから失敗になる。成功するところまで続ければそれは成功になる。
- ・人より一時間余計に働くことは尊い。努力である。勤勉である。だが、いままでよりも一時間少なく働いていままでも以上の成果を挙げることもまた尊い。そこに人間の働き方の進歩があるのではないだろうか。
- ・誰でもそうやけど、反省する人は、きっと成功するな。本当に正しく反省する。そうすると次に何をすべきか何をしたらいいかということがきちんとわかるからな。それで成長していくわけや、人間として山は西からも東からでも登れる。自分が方向を変えれば、新しい道はいくらでもひらける。

校長 筒井 啓介